

## 平成 21 年度 現代女性キャリア研究所 紀要の発刊に寄せて

学長 蟻川芳子



日本における女子の教育は明治維新後に始まりました。それまで教育と言えば男子を対象としたものであり、「女子に学問は不要」と言われていたためです。女子の中等教育は「母親に学術がある時はじめて立派な子育てができる」という欧米の教育観に習って始まり、キリスト教系の学校が明治中期に盛んに設立されました。これらはキリスト教の伝道と英語教師の養成を目的としたミッションスクールですが、1890

(明治 23) 年の教育勅語の発令に見られるように、国家主義的傾向が強くなると経営の方針を切り替えたり、アメリカの *female college* の体制を取るなどして切り抜け現在に至っています。津田英学塾、東京女医学校、女子美術学校などの職業教育を行う専門学校ができたのは 1900 (明治 33) 年、続いて 20 世紀の幕が開けた 1901 (明治 34) 年に日本女子大学の創立となります。このように日本の女子の中等教育、高等教育は女学校から始まったという歴史を持っています。普通教育を行う女子の高等教育機関の第一号となった本学からは、一回生の井上秀、丹下ウメ、三回生の大橋廣、原口鶴子を始め、各分野のパイオニアとなった女性達が巣立っていきました。新制大学となって女子大学以外は共学となり、女子の高等教育への門戸は開放されましたが、それまで約半世紀にわたって女子大学が果たしてきた女子教育に対する貢献は計り知れません。

現在女子大学の存在意義が問われている中、一世紀にわたって女性の能力を開発してきた本学は、社会に参画していく女性を教育する責任を負っています。女性には女性の感性や特徴があることは事実ですし、その生き方にも違いがあります。少子化が進む現在、日本の社会を支えていくにはこれまで以上に女性の力が必要であり、その中に女性の感性を活かすことができれば、より理想的な社会が形成されることは間違いありません。

女性の「生き方」に関するさまざまな調査研究および情報収集、学内外の研究プロジェクトとの交流などを通じ、女性が能力をフルに発揮できるように、そしてその「生き方」を支援するために、本研究所に寄せられる期待は大きいものと確信しています。

このたび紀要が発刊されることになりました。研究成果を広く社会に発信し、女性が生涯輝いて充実した人生を送れるために、今後の活動を心から応援しています。

## 研究所創設の経緯と『現代女性とキャリア』の創刊

現代女性キャリア研究所長 岩田正美



はじめに

「現代女性キャリア研究所」という、舌を噛みそうな名前の研究所が本学に創設されたのは、2008年4月のことである。とはいえ、学内でもこの研究所の存在そのものが認知されるにはまだ至っていない。20世紀の初頭以来、女性を「人間として」教育するという高い理想の下に運営されてきた本学のメンバーにとって、今更なぜ「女性」を強調するのか、

という戸惑いもあるだろうし、キャリアという用語に関しての違和感も少なからず存在していよう。それにも関わらず、研究所の創設に至ったのは、次の三つの背景があった。

### 研究所設立の経緯

第一は、大学選択における共学志向の上昇のもとで、女子大学の存在意義があらためて問われている、という時代状況である。第二は、女性の大学進学が進んでいるにも関わらず、日本社会の女性の能力活用については、極めて不十分な状況がある。第三に、これらの状況を受け止めて、既存の教育プログラムを現代女性とキャリアという視点から再編したいという機運が学内に芽生えてきたことである。本誌・動向欄で詳しく紹介されている二つのキャンパスにおける女性とキャリアに関わる副専攻（目白は連携専攻）の実現、また本学のユニークな教養特別講義2の「女性」をキーワードとした改革、リカレント教育課程の創設などが具体的なものである。なお、ここでキャリアという言葉を使用するにあたっては、狭く職業生活を指すものだけではなく、女性のライフコースにおける教育キャリア、生活キャリアも含むということが、次第に合意されていった。

これらの再編・改革のきっかけとなったのは、文部科学省の大学教育国際化推進事業「戦略的国際連携支援」による「アジアの女性高等教育とエンパワーメント」プログラム、大学教育高度化推進特別経費補助金による「現代の女性高等教育ニーズに応じた多領域横断型副専攻プログラムの再編成」プログラム、および総合研究所の研究課題の一つとして「女性の社会進出と生涯学習」研究などによる実践であった。またこれらの取り組みのなかで、韓国・梨花女子大学校の実践に触れたことは、これらに関わった本学のメンバーに大きな影響を与えた。

梨花女子大学校では、学部再編や教育改革のみならず、アジア女性学センター、リーダーシップ開発院など野心的な試みを次々に行い、「キャリア教育開発」を戦略的な

課題として 21 世紀の女性の高等教育のありかたとエンパワーメント・プログラムの開発に熱心に取り組んでいた。その中でアジア女性学センターは、多くの教育プログラムを、理念・研究面で支える役割を果たすだけでなく、アジア全体の女性学のセンターとしての自負をもって運営されていた。本研究所の創設のヒントは、実践を背後から支える研究機関の存在意義を、この梨花女子大学校で目の当たりにしたことにあ

#### 研究所と『現代女性とキャリア』

以上のように、本研究所は、研究所だけ単独で存在しているのではなく、二つのキャンパスの連携専攻・副専攻、教養特別講義 2，リカレント教育課程をはじめとして、さまざまな現代女性とキャリアに関わる本学のプログラムを、研究や情報から支えるものとして位置づけられた。このため、本誌「現代女性とキャリア」も、研究所紀要というだけでなく、本学の女性教育とキャリアに関わる相互交流、情報発信の役割を担いたいと考えている。

また、本研究所では、創設年度に文部科学省・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業『女性の多様なキャリア開発のための基礎的研究-「女性とキャリア・アーカイブ」構築へむけて』に採択され、主に戦後日本の女性とキャリアに関わる社会調査書誌データのデータベース化などを進めている。本学の研究教育だけでなく、対外的にも意味のある研究蓄積を進め、外部機関との連携も進めていきたいと思っている。この成果は、今後本誌でも発表していきたい。

創刊号となる本誌には、2009年1月に行われた研究所創立記念講演会・シンポジウムの内容を特集として掲載した。また本学のキャリア教育に関わる重要な論文2点、さらに動向欄として本学キャリア関連プログラムの内容について寄稿して頂いた。

#### 謝辞

最後に、研究所設立に関して、後藤祥子・前学長、蟻川芳子・現学長、若林元・常務理事をはじめ、学内の多くの方々に温かいご助力をいただいた。また、経緯で述べたように、本学における女性とキャリア教育の改革について尽力された学内の諸先生、様々にご教示頂いた梨花女子大学校の諸先生、立ち上げの苦勞を共にした研究所研究員・職員に、あらためて深く感謝申し上げる。